

国造振興会とのタウンミーティング

日 時 令和5年2月25日（土）18時～19時

会 場 虚空蔵会館

参加人数 40人

1) 開会

2) 国造振興会 副会長ご挨拶

・ 昨年8月4日の大雨災害では、早朝より市長自ら鍋谷川、館谷川の水位状況を確認に来ていただき、避難指示を発令されました。そして、国造地区の災害復旧に支援をいただき、本当にありがとうございます。

・ 災害体験談では、寺島町前町会長が今後同じような災害があったときの備え、助けとなればと思い、「8月豪雨を振り返って」ということで発表させていただきます。

3) 市長 市政報告

○はじめに

・ 昨年8月4日に大雨が降り、そして甚大な被害が発生をした。一番大きな被害があった寺島町に対して、ボランティアの皆様方がたくさん訪れていただき当時は600名を超えるボランティアの皆様方が入ってこられた。寺島町の皆様方からは土砂を搬出していただいただけでなく、とっても勇気をもらった、ぬくもりを感じたとおっしゃっていただいた。ボランティアに入った方々からも、こんなに喜んでもらえてうれしかった、勇気が出たとお言葉をいただいた。

○インクルーシブのみ

・インクルーシブという意味は、仲間外れにしない、みんな一緒だという意味で、今能美市では地域共生社会を目指している。地域共生社会というのは、健康な方も高齢者も子供も障がいをお持ちの方も、そして外国人も、能美市に住む全ての皆様方が安心・安全、快適に暮らしていただけることです。それを目指し、「インクルーシブのみ」として今様々な活動をしている。

○2002年を振り返って

・3年ぶりにいろんなイベントが復活開催をされた。5月のゴールデンウィークに九谷茶碗まつり、そして7月に根上り七夕まつり、8月に辰口じょんからまつりが開催され、コロナ前よりも盛況だった。

・義援金や寄附金を大変たくさん頂いた年でもあったし、たくさんの連携協定も結ばせていただいた。新聞社から、この1年にかかる思いを漢字1字でと言われ、令和4年は「備」という字を選ばせていただいた。

○8月4日の大雨について

・4時18分に大雨警報が発表され、5時8分に土砂災害警戒情報が発表された。すぐに現地に向かい、その後市役所に戻り災害警戒体制会議を招集し、6時40分に鍋谷町と寺畠町に避難指示を発令、和気小学校を指定避難所にした。

・金沢気象台からは午前中で雨が小康状態になるという連絡を受けていたが、一向に雨がやまずすごい雨が降り続き、市内全域に自主避難所を開設した。雨水がどんどん下水道に入っていく、夕方になり下水道が流れづらくなった。下水道の使用制限のお願いを市内に流させていただいた。夜になって土砂災害警戒情報が解除され、洪水警報も解除された。翌5日の10時15分に大雨警報が解除され、16時45分に避難指示を解除したのがこの2日間でした。

・農業の被害も大変甚大でした。鍋谷川流域では、田んぼがほとんど水に浸かりましたまた15か所の頭首工が全部壊され、給水ポンプを使いしばらくの間水を入れていた。

・史跡名勝では土石流が発生した。蟹淵に行く林道はまだ復旧のめどがたっておらず、もう一回整備するか、あるいは迂回路を考えるかを今年中に決め、工事を施していきたいと思っている。

- ・能美市でも広い範囲で冠水の被害があり、鍋谷川や西川周辺で大きな被害があった。
- ・2018年7月にも豪雨が発生し、このときも避難指示を発令した。大雨警報が発表されてから約5時間後に土砂災害警戒情報が発表された。ところが、昨年の8月4日は大雨警報の50分後に土砂災害警戒情報が発表された。8月20日は何と20分後だった。8月4日の4時～5時の間に時間86ミリという雨が鍋谷川周辺に降った。86ミリというのは、能美市になって、恐らく辰口時代も含め初めてだろうと思う。
- ・最終的に市内で123件の床上床下浸水、土砂が流入した農地が12ヘクタール、冠水した農地が20ヘクタール、イノシシの柵が1キロにわたって被害を受けた。
- ・8月4日以降は、緊急のワンストップで対応できる窓口を設置した。家の中に入った水を出すためのポンプが必要になったが、能美市では準備していなかった。過去にそういった経験が無いため、全然準備していなかった。
- ・ボランティアセンターを開設し、市内で甚大な被害を受けたところに順次ボランティアに行っていた。また、市内3か所に災害ごみの臨時集積所を設置した。二次災害が起きないように土のうを組んだり、被害状況を確認しに行ったり、市民の皆様いろいろな情報を伝えたりもした。国や県への要望活動を行い、視察等々にも来ていただき、一刻も早く復興復旧、それから二度と起きないように対策を施してほしいと何度もお願いをした。
- ・昨年の9月の市議会で5億9,300万円、12月の議会で2,900万円。3月の議会では、1億4,100万円の予算を計上して、復興復旧に当たっている。
- ・今回の大雨でいろんなことを我々も経験し、我々行政だけでは全部やれ切れないという思いもあった。ある町会町内会では自主的に公民館を避難所にしていただいて、なかなか移動できない住民を自主的に避難所に誘導をしていただいた。土のうを造っていただき被害の拡大を防いだりもしていただいた。今後、ハザードマップ等々の見直しや、避難所の在り方をもう一回考えていかなければならないと思っている。

○2023年の取り組みについて

- ・令和5年の漢字一文字は「導」という字を選ばせていただいた。デジタル技術をどんどん導入しようと進めているが「デジタル」という字を一文字で表現できる字がなく、あえてこの字にした。
- ・自治体の勢いを示す数値は、私は人口増だと思っていて移住・定住の促進というのを目標に掲げている。移住・定住の促進には社会増と自然増の二つの要素があり、その二つを

一生懸命やろうとしている。

・石川県に19市町あるが、人口当たりの外国人比率は能美市がナンバーワンです。一番多いのがベトナム人、次は中国人です。企業誘致が大変好調な分、人材確保をどうやっていこうかとも考えている。また、市内に11ある小中学校は築50年以上が35%であり、老朽化をどうやって解消していくかも大きな課題。これらの課題をデジタルの力を使って解消していこうとしている。

・能美市は全ての施策を移住・定住の促進に繋げる様にしている。令和5年度は災害対策、市民力・地域力の強化、知名度・認知度の向上、自然動態の増進、GXの推進、この5つの方針と目的で予算編成をしている。

(災害対策)

・災害対策では、国、県の支援をしっかりといただきなが進めていく。ご当地に関連したことでは、鍋谷川の河川整備です。河川の幅を広げ、堤防の高さを高くしてもらえることになった。上流ばかり広げても水の量が減っていかないことから、下流でも堤防の高さを広げていったり、梯川も随時やっていただくことになりました。こんなに早急にこれだけ大規模の工事をやっていただけるのは、本当に国、県に感謝であり、一日も早くこの工事が完工するよう国、県に引き続きお願いをしていきたく思っている。

・防災行政無線の多重化を今進めている。スマートフォン等々にLINEを使って文字で流したり、固定電話で確認できるようにします。それから、ケーブルテレビやホームページでも発信し、室内の受信機を新しいものに全部切り換えます。屋外スピーカーも更新し、市内全域で聞こえるようにします。

(市民力・地域力の強化)

・新型コロナウイルス感染症に伴って人と人が会う機会が少なくなった。コミュニケーションが取りづらくなり、例えば壮年団や婦人会、最近は消防団の人数も少なくなってきたと聞いている。文化イベント等々も少なかったのも、伝統芸能等々の継承も難しくなってきた。スポーツ関連の試合もなかなか開催できず競技力も落ちてきていると聞いて、ビヨンドコロナに向け市民力・地域力の強化をしていこうと考えている。

・来年度は市内の公民館にWi-Fi機能を整備して、その次年度に例えばeスポーツや、お医者さんの診察がオンラインで受けられる装備や、この場所に集まれば何か楽しいこと

ができるんだ、それから市民との交流ができるんだというような場所、デジタル公民館に変えていきます。令和6年度以降に順次やっていくことで、すぐにそこまでは行きませんので、理解をいただきたい。

- ・デジタル公民館のイメージですが、遠い先にはドローンに皆さんが注文したものを運んでもらえる、そんな時代も来るのじゃないかと思う。そんな時代に乗り遅れないよう、デジタル技術をどんどん活用していきたいと思っている。

- ・今年はいしかわ百万石文化祭が開催される。能美市でも色々なイベントや行事を計画しており、多くの市民がその場所に行って見るだけではなく、参加してもらえようような、そんな行事やイベントをやっていきたいと思っている。

- ・能美市史が現在ないため、市制20周年、2025年に向かって市史も作成していきたいと思っている。

(知名度・認知度の向上)

- ・いよいよ来年の3月には北陸新幹線県内全線開業を迎える。先ほど申し上げたとおり、企業誘致が好調ですが、人材不足なんです。人材が既存の今ある企業さんから誘致した企業に流出をしてしまうと企業誘致の効果が半減することから、大都市圏からU I Jターンを促進したいと考えている。

- ・大都市圏へ行って「能美市の市長」と言っても通じない。能美市はまだまだ知名度が低い。大都市圏だけでなく、能登でも知名度が低い。能美市の知名度・認知度をどうやって上げていかもやっていきたいと思っている。

- ・「シナモロール」というサンリオの人気ナンバーワンで大変有名なキャラクターがいるんですが、それを能美市の応援大使として迎えます。ひぼ能ん、ゆず美ん、ぼぼ能んと一緒に様々なプロモーション事業をやっていく。

- ・国造エリアでは、昨年アドベンチャーガーデンがオープンした。遣水観音はトレイルランニングで、今では聖地と言われている。和気のバーベキュー場も整備を進めており、この一帯を、点と点のセクションではなく、エリアとして使っていただけるようPRをしていく。新しい看板をつけ、この辺りの全域が分かるようにします。遣水観音の頂上や、虚空蔵山の頂上などの要所要所に、いわゆるフォトスポットを造って巡ってもらえるようにこのエリアをしていく。

- ・企業誘致が好調ですが、住む場所が能美市はまだまだ少ないことから、和光台の5丁目

を整備して、4月から分譲を開始します。また、金沢大学が持っている約10ヘクタールの土地を能美市で購入させていただき、宅地にしていくことからこの辺りはにぎわってくるんじゃないかと期待もしている。

○自然動態の増進

・最近、独り暮らしの高齢者とか独り暮らしのおうちが多くなっている。独り暮らしの市民が具合が悪くなって、隣の人に救急車を呼んでもらったとする。救急隊は、病院に運ぶのに、この人の病歴や服用している薬、緊急連絡先はどこかを把握して病院に連れていかないといけないが、本人が具合が悪く聞けない。対策として、事前にこういった情報をデータベースに登録をしていこう最新のデータがわかるように、管理をしていこうと今始めようとしている。

○インクルーシブシティ

・インクルーシブシティということで、いろんな取組をしている。独り暮らしの高齢者の人たちを見守るのに、家の中にセンサーを置いて、何か具合が悪くなったときに知らせるような仕組みをつくっていこう。また、腕時計みたいなものをつけていただき、脈拍や血圧を測定して健康状態を管理し、具合が悪くなりそうだったら警笛を鳴らしてお医者さんに行ってもらおうようにしよう。

・オンライン医療相談といって、来年度からはメールで市内の病院だったらどこに行けばいいのかとか、こんな状態なんだけれどもどうすればいいんだということをアドバイスしてもらえる、そんな仕組みをつくっていく。

・2013年のCO₂の排出量に対して、2030年には半分にしなさいと決まっている。能美市もその取組を始め、2050年にはゼロにするということで、ゼロカーボンシティを目指していく。

○おわりに

・新型コロナウイルス感染症が第5類になるという話も聞いている。今年の運動会は、和気小学校の伝統である子どもたちとご家族の皆さんが集って運動会がやれる、そんな日が来てほしいと願っている。

3) 質疑応答

質問1

【参加者】

- ・災害復旧の話があったが、イノシシ柵の復旧は市の補助が出るのか。また、土のうづくりの話が出たが、個人が購入する際に補助を出してもらえないか。
- ・市には観光大使がたくさんいるがもっと色々なイベントで、一堂に会しては難しいかもしれないが活用できないか。

【井出市長】

- ・イノシシの柵が壊れた分は全部能美市で復旧する。
- ・土のうは、市で補助をすることも膨大な費用、財源が必要になる。効率的な方法を検討していきたい。
- ・観光大使の皆さん方が出演するコンサートを昨年実施した。特にミュージシャン関係の皆様が一堂に会し、多くの来場者に来ていただいた。今年もそういったイベントをやりたいと思っている。

質問2

【参加者】

- ・国造保育園は土砂災害のイエローの区域になっている。子どもたちがCC館に避難するときは、一旦危険な外を通らないといけない。保育園とCC間を繋ぐ安全な屋根付きの通路を作ることはできないか。
- ・構造保育園は大変古く手狭にもなっている。建て替えをしてほしい。

【井出市長】

- ・保育園裏側の斜面に防護柵を造っており、安全性はよくなったと思う。市内では老朽化した保育園を順次建て直しを進めている。古い順番にやっており、令和5年度は緑が丘と湯野保育園に着手する。その後あたりにはなると思う。

質問3

【参加者】

・こういった集まりで市長の話聞くことは非常に良いと思うが、若い人はあまり知らない。若い人がもっと来られる仕組み作りをしてもらえないか。もっと若い人とフランクに活発に意見交換できる場があるとよい。小・中高校生とかと話すのも良いと思う。LINEなどでも周知してみてもいい。

【井出市長】

・タウンミーティングや今年度から能ん美りカフェトークとも実施しているが、あまり伝わっていないのかもしれない。呼んでもらえれば何うので、ぜひ実施したい。私のスケジュールの関係もあるので、担当課に連絡してもらえればと思う。周知方法も広報紙やHPでご案内はしているが、検討していく。

質問4

【参加者】

・頭首工がこわれているが、いつ復旧するのか。今年の4月に間に合うのか。

【井出市長】

・今年の4月からできるように整備をしているつもりではあるが、不都合があればぜひ教えてほしい。もしあればカバーしていきたい。ヒアリングを重ねて皆さんの声をほぼお聞きできていると思っているが、何かあれば言っていただければ。

質問5

【参加者】

・鍋谷の林道はまだ復旧はできていない。その影響で保水力が落ちているように思う。また農家の方への経済的な援助もお願いしたい。

【井出市長】

・林道の復旧には順次取り組んでいきたい。農家の方への補助の仕組みも今準備しています。

質問6

【参加者】

・防災士会でも先の災害から学んだことを次に活かして行きたいと思っている。情報が来ない、正確な情報が取れない、町内でも安否確認ができない事が課題と思っている。野々市市や金沢市が活用している「結ネット」というアプリがある。経費が掛かるものでもあるので、市の援助なども検討できないか

【井出市長】

・市でも現在検討している。今後ご提案は頂ければと思う。

4) 閉会